



総会で挨拶する
石渡徳一市長

「大変なほどやりがいがある」

鎌倉世界遺産登録推進協議会会長 養老 孟司

本日、鎌倉世界遺産登録推進協議会が発足し、鎌倉の世界遺産登録に向けて、市民と行政との強力な取り組みが始まりました。

鎌倉のように、生きているまちで歴史的遺産を保存するという事は、ご存知のように現在の生活に抵触する部分もあります。

私は、世界自然遺産を目指している「鹿児島・琉球諸島」の取組みにも関わっていますが、実は自然系では、もっと厳しい面があります。例えば、屋久島は、世界自然遺産に登録されたことにより開発行為など様々な制限がかかっています。

鎌倉は戦争中、爆撃がされませんでした。仕事で日本中をまわる機会がありますが、戦争で古いものが壊されたまちというのは、必ずしもきれいではないのです。

鎌倉は歴史的遺産が、たまたま爆撃されなかったことで残っています。それらをどうやって後世に残していくのかと、それが大袈裟に言えば使命ではないかと思っています。

世界遺産登録を契機に、一般の市民の方がいろいろなことに関心をお持ちになる、そのことが大切なことだと思います。

こういうことは、やることが大切です。やるか、やらないかということを秤にかけるならば、やる方が多分大変なんだろうと、大変な方を選んだ方が、自分のためにもなります。このまちは何らかのはっきりとした目標を掲げて動くということをしてこないまちであったように思います。私個人の問題だけではなく、抽象的なことでなく具体的なことでやってみるということは、いろいろ勉強になるのではないのでしょうか。世界遺産登録への道筋が不透明という声もありますが、不透明なほど面白いと思っています。

私はそうしたことから、会長をお引き受けしました。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。(設立総会会長挨拶より抜粋)

「歴史遺産を将来に継承」

鎌倉世界遺産登録推進協議会副会長 鎌倉市長 石渡 徳一

鎌倉世界遺産登録推進協議会 設立総会の開催にあたりまして、市長として、また、この推進協議会の呼び掛け人の一人としてごあいさつさせていただきます。

鎌倉は、「武家の古都・鎌倉」というコンセプトで世界遺産登録に向けた準備を進めておりますが、私は鎌倉の世界遺産登録を目指す上で、大きく二つの意義があると考えています。

一つ目は、鎌倉の貴重な歴史的遺産を、確実に将来に継承していくということです。

現代日本まで引き継がれる「武家の文化」を生み育てた鎌倉、そして、そのことを象徴的に示す多くの歴史的遺産を今に伝える鎌倉を、世界全体の財産としてきちんと保全し、未来後世の人々に大切に伝えていくということは、鎌倉市民として現代に生きる我々の使命ではないかと思っています。そして、文化財や社寺など歴史的なものを大事にしていくこと、我がまちの誇りと感じていくこと、こうした気持ちが世界遺産登録を通じて大きく育まれることが何よりも大切なことではないでしょうか。

二つ目は、世界遺産登録は「まちづくりの運動」に繋がるものであるということです。

多くの歴史的遺産が点在する鎌倉は、また、多くの市民がお住まいになり生活をする都市です。世界遺産登録の要件とされている「バッファゾーンの確保」という課題などは、まさにまちづくりの視点からの取り組みを必要とするものであり、そうしたことから世界遺産登録推進は「まちづくりの運動」ではないかと考えるものです。

世界遺産登録は、決してゴールではなく、未来後世に鎌倉を継承していくための一つの通過点であります。

今、鎌倉の世界遺産登録に向けた本当の意味での取り組みが始まるものであり、是非、皆様とともに、本推進協議会の活動を一步一步確実に、また、活発に進めてまいりたいと思います。(設立総会市長挨拶より抜粋)